令和５年度
第２回　小金井市立本町小学校　学校運営協議会記録
令和５年６月１７日（土）
１４時３０分～１６時　多目的室

〇出席　１４名中１２名出席（オンライン１名含む）
委員の過半数の出席により本会成立
〇傍聴　０名

＜１＞会長挨拶
・学校公開で児童が意欲的に授業に向かう姿やクロームブックを効果的に活用し児童も自然に活用している授業、環境掲示がすてきだった。

＜２＞学校長挨拶・学校の様子について
・挨拶が増えているが地域の方への挨拶が更に増えるよう大人の働きかけが大切。どのようなしかけがあるのか、お知恵をいただき、皆さんで広げていきたい。
・教師主導からの脱却、主体的な授業に向けた大きな転換期。
・主体的は、これについて学びたい！という強い意欲、動機付けから。できるだけ１人１人自分の思うように授業デザインしていく。例えば、国語の物語文では、１場面を追究したい児童、３場面を追究したい児童、音読に力を入れたい児童、児童それぞれの思いがある。追究するところは選択に幅をもたせたい。グループ活動も定番の決められたものでよいのか、本当にそのグループ活動は意味のあるものなのか。色々なグループがあってもよく、幅をもたせたい。PCや教科書、ノート等使うものを児童が選択して学習を進められるとよい。子供も大人も変わっていくチャレンジ期。

＜３＞協議

【承認事項】
〇学校の予算の編成について
※備品・消耗品等資料参照

【学校の予算の編成について　承認】
【熟議】
〇地域学校協働活動について
①どんな子供を地域で育てていきたいか？地域を担う子供とは？
②そういう子を増やすために具体的にやっていきたいこととは？

～視点①～

・自発的に挨拶できる子。（主体的につながる）
・前向きにピンチをチャンスに変えられる子。
・自己肯定感の高い子。（何を言っても大丈夫な集団）
・街に地域に愛着ある子。（イベント参加など。安心もあると相乗的に良い方向へ）
・楽観的な子。（なるようになる）
・集団を育てる、個を育てる両方の視点が必要。
・自分の思いを伝えられる子。
・自分の意見を表現する能力、人の意見を聞く能力が大切。
・「〇〇のために学ぶ（手段→息苦しくなる）」と「楽しいから学ぶ（目的→楽しくなる）」このバランスが大切。「楽しいから学ぶ」という子が育てば勝手に主体的に学ぶ児童が増えるので後者の学びが重要。ただ、現在、学校では時間や内容に制限があり、教えなくてはならないことも明確にある。例えば、理科で電気を学び、もっと電気を学びたくても次は生物を学ぶなど、次の時間は違う教科になってしまう環境。だからこそ、思い切りやりたいことは、放課後に設定。児童がやりたいものを支援していく。学校と地域の連携が必要。
・自分の意見を大事にこだわりをもち、大人のいいなりにならない子。こだわりを通すためには、「周りを思いやる」「相手を受け止める」ことができるようになることも大切。「楽しむ」、「主体的に」という視点が重要。子供会でも自分の企画を主体的に進めることが、「楽しめる」につながるので、その環境づくりをしていきたい。
・粘り強い子を育てるのは難しい。どうやって粘り強くなったか？と考えてみると自分の好きなものには粘り強くなれる。「これが好きだからできる」、「これは好きではないからできない」があってよい。全てに粘り強くでは疲れてしまう。
・例えば、野外活動の中学生の子供会ジュニアリーダーがあった。現在は部活等で多忙。以前は、子供会ジュニアリーダーメンバーが多くいて、キャンプをすると決めたら、企画から全てやっていた。将来活躍する児童が多く見られた。この主体性は、将来の自分たちの就職や行きたい大学探しにつながっている。

～視点②～

・学芸大学や学校でイベントやってますと呼びかけるものではなく、無作為的に行ったら、やっていたという学びの場を作っていきたい。
・児童が自主的にこういうことをやりたいという思いをかなえられる場を提供できるとよい。児童がいきなり主体的に活動するのは難しい。例えば、PTA夏祭りのお店のサポートからスタートして、その成功体験が、自主的にこうやりたいという思いにつながる。
・小金井をどういう街にしたいと考え、波踊りをもっと盛んにする、駅のさびれた壁にペイントしたいなどの思いが生まれてくると面白い。
・教科横断的な理科系の視点が生かされる活動が多くなるとよい。夏祭りのお店で売るとしたら、「いくらで仕入れていくらで売るかを考える」、「ヨーヨーを膨らますのに、１個の〇秒かかるから〇個仕入れる」などを考えられるとよい。
・子供が自分の思いを解決できるような活動ができる地域未来塾を立ち上げたい。雑談しながら子供たちがこんな課題を解決したいという思いをもち、大学生がその解決のためのサポートを行うといった活動ができるとよい。現在、サポート役候補の大学院生が３人いる。できれば、中学生も巻き込んでいけるとよい。

※今日の御意見を共通の想いとして、各所属団体に持ち帰っていただき、賛同する人たちを増やしていきたい。
※校長室前のコミュニティ・スクール掲示も、今日の内容を生かしながら充実させていく。